

平成23年9月21日開催教育委員会会議記録

1 開会・閉会等について

日時	平成23年9月21日(水) 午前10時00分
場所	教育委員会室
開会	午前10時00分
閉会	午前11時30分
出席委員	
委員長	高木新太郎
委員	横井利男
委員	鈴木みゆき
委員	雁部隆治
教育長	横山信雄
説明のために出席した職員	
教育委員会事務局次長	小暮真人
庶務課長	後藤隆宏
学務課長	藤田悟
指導室長	橋爪昭男
すみだ教育研究所長	渡部和美
生涯学習課長	金子しのぶ
スポーツ振興課長	中山賢治
あずま図書館長	村田里美

2 会議の概要

- **高木委員長** それでは、教育委員会を始めたいと思います。本日の会議録署名人は横井委員にお願いいたします。

議決事項第1

議案第58号「文化財調査員の委嘱について」の案件を上程し、生涯学習課長が説明する。

- **高木委員長** 大学院生というのは、多くあるのですか。
- **生涯学習課長** 墨田区では、仕事を退職された文化財調査員さんが多いです。フィールドワークもあるので今回は若い方にお願いしました。

- **高木委員長** 文化財調査員は、現在何人いらっしゃいますか。
- **生涯学習課長** 要綱では10名以内となっていますので、現在7名です。
- **高木委員長** 皆さんのほうからのご質問はよろしいですか。それでは、議決事項第1、議案第58号「文化財調査員の委嘱について」は、原案どおり委嘱することにしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

- **高木委員長** それでは、原案どおり決定いたします。

以上で予定の議決事項は終了しました。次に報告事項にまいりたいと思います。

報告事項第1

「教育委員会の点検・評価結果報告」について、資料1のとおり庶務課長が説明する。

- **高木委員長** 何かご質問はございませんか。25ページから始まる3人の先生方の意見を読みましたが、「個人学習プロフィール」の評価が高いですね。「個人学習プロフィール」はとても重要なことだと皆さん認識していますので、活用方法については、さらに考える必要があると思います。家庭教育の「両親大学」についても重要なことと思いますが、この講座のテーマを選ぶことが難しいと思います。「すみだ地域学セミナー」についても、重要で関心のあることだと思います。ここには、尾木委員のご意見の中に、「すみだ地域学セミナー」についての今後の課題は、二つあり、一つは内容の充実。もう一つは、セミナーの修了者に対しては、どのように地域に還元し、文化活動を充実していくことが望ましいのかとあり、大切なことだと思いました。
- **横井委員** 報告としての内容は良いと思います。全体を見て気がついたことをいくつかお話させていただきたいと思います。2ページの「個人学習プロフィール」ですが、せっかく、このような良いデータがあるのですから、義務教育9年間を通じて、具体的に効果が出るような方法があると良いと思います。以前お話しましたが、指導要録の中の、児童・生徒の学籍の記録は、正確に書かれています。学習の蓄積の記録部分は、これまで学校ではあまり問題になるようなことは書かなくなっているような気がします。あまり役に立たないと思います。「個人学習プロフィール」を補助的なものとして位置づけ、指導要録とセットにし、指導する先生が通知表とうまくリンクさせ、プロフィールの蓄積をみていくシステムができれば良いのではないのでしょうか。それに関連しますが、「PISA型学力」の「わくわく読解ブック」は、個人で見ることではできないのでしょうか。
- **すみだ教育研究所長** これは、インターネットで見ることには出来ますので、自宅でも見られますが、ベネッセのパスワードがないと開けません。
- **横井委員** 教育委員もインターネットを見られるようなことも考えていただけたらと思います。この「わくわく読解ブック」を活用すれば、「PISA型学力」がつくと、先生方たちが思ってしまいいけないかと思うのです。総合的学習の時間をうまく使って単にその机上の学習だけではなく、ただ資料を読み取るだけでなく、社会に出たときに役に立つ、生きる力に資するような「PISA型学力」の本質にせまるような学力に持っていく必要があるかと思います。次に、英語活動についてですが、学校の格差がかなり大きいと思います。せめて同一ブロックに行く学校が同じレベルでないと、中学に行くと差が出てきてしまいます。英語を好きな生徒でも授業についていけなくなってしまうので、留意をしたほうが良いと思います。「施策の方向1」の目標2、「地域の特色に合った魅力ある区立学校づくり」と目標3「よりよい教育活動を推進していくためのしくみづくり」で関わるこ

とですが、学校運営協議会の活性化とは、特色ある学校につながることでと思います。

たとえば、他区から来た校長先生が地域の特色に合った学校といっても難しいと思います。教育指針にも示してあるとおり、情報共有のための学校運営協議会連絡会の設置があれば、その協議会が機能して幼・小・中の連携を行い、地域の特色が出せます。地域の特色が何か、地域が学校に期待しているものは何かを出せれば、学校運営はやりやすくなります。地域の特色といっても、それは単に、「吹奏楽ができます。展覧会で頑張っています。」というのは、その点としては良いのですが、地域の特色ではないので、それを受け、校長先生たちが地域の特色を出せたら良いのかと思います。そのために、運営協議会の活性化とブロックの連絡会がうまく動く必要があります。もし、それが出来ないのなら、全校で同じ教育を指導するので、学校選択制にしなくても良いこととなります。学校選択制にしているのだから、何か積極的な意味づけをすることが必要です。現在、学校選択制が学校を活性化させていますが、本来の地域の特色ある学校づくりが目指せたら良いと思います。そのためには、12ページの「広い視野と高い指導力をもつ区立学校教員を育成します」が重要になりますが、一所懸命対応している先生が伸びていない。もっと子どもたちと接するノウハウ、あるいは教員魂を揺り動かすような研修ができれば良いですね。

特に小学校の先生は、教員目標とする初志があるのですから、その初志を思い出せるような研修ができると思います。今、管理職試験を受験する先生が少なくなってきましたが、これは管理職の仕事がかなり大変らしいということで受験しないようです。大変だからいやだとならないような何か良い方策はないのでしょうか。それから、22ページの生涯学習センターの記述の中に科学教室とありますが、応募者が定員より多いそうです。この内容は教科書にないテーマを実験するというので、興味を持っている子ども達にとってはとても有効な活動です。ただそれだけで終わってしまっているので、自分たちの興味を広げられるような次の段階の活動があったら良いと思います。そのような場がないので、うまく興味を広げられるような環境が大事だと思いました。

○ **雁部委員** 評価委員さんの三名のご意見の共通していることは、成果についての検証が必要だということが書いてあります。29ページの佐藤委員さんのご意見ですが、成果等を数字で表現したほうが良いということです。すみだ教育研究所の学力の成果がグラフになってわかりやすくなっていますので、それを参考に、たとえば、学力の状況等をグラフ化にし、数値化すれば、原因究明しやすく、学力の落ちている場合は修正したり、良くなっている場合は伸ばす等の具体的な政策が取れるので、検証が必要です。17ページの「学校と地域を結ぶしくみ」の課題で、地域の中で子どもを育てていくということですが、今現在、教員、副校長先生の雑務が多すぎて、子ども達と向き合う時間が少ないと思います。学力向上を目的とした場合、子ども達と先生の信頼関係を作っていかなければ、なかなか学力は上がってこないと思います。なぜ、雑務が多いのか、原因を究明し、やらなくて良いことは減らし、必要なことはやるという住み分けをしないと、このままだと、雑務が多くて副校長になるのがいやだということになってしまいますので、かなり問題だと思います。また、墨田区の場合、現金の取り扱い、副校長先生が行っているようです。他区は副校長先生はやっていないようなので、これだけでも減らせば、だいぶ副校長先生の事務は減らせます。ひとつひとつ、何を減らせるかを検証し、先生と子ども達が向き合う環境を作っていくことが大事だと思いました。

○ **鈴木委員** 家庭教育の記述のところで、「インターネットの講座」は、とても画期的だと思います。家庭教育のいろいろな講座に出させていただいていますが、一番聞いてほしい方はなかなか来られ

ない状況のようです。一番聞いてほしい方にどのように届けるかが、重要だと思います。保育園と幼稚園の連絡を取りながらの「小学校すたーとブック」は、私も読ませていただきましたが、とてもわかりやすいと思います。区は、よく縦割り行政になり、保育園は保育課、幼稚園は教育委員会というように、全然連携がないところがありますが、墨田の場合は、せっかくルートがあるのだから、保健センターと一緒にもう少しPRをしていったら良いのかと思いました。「小学校すたーとブック」はとても良いと思うのですが、それより前の5歳では遅く、0、1歳のころの子育て支援が求められているのだから、そこから幼・小・中の連携そして、その先へと子どもの育ちを見ていくような保護者講座があったら良いのかもしれないと思いました。

○ **横山教育長** 三人の先生方の提議については改善していかなければいけないと思います。

10月の決算委員会には、この「点検・評価の報告」は提示しますから、必ず各議員さんはこれを見て質問をします。厳しい指摘もあります。そのような中で、具体的にどのような改善を加えたのか、実証、検証をされますので、ぜひともこの取り組みを実施していきたいと思います。当面今、教育指針とまなびプランを作成中ですが、委員さん、先生方のご意見を、それをどのように反映するのか、具体的に反映していきたいと思います。一つは、学校の校長先生、副校長先生、主幹の先生方等が、いろいろ実務が大変だというご意見がありましたが、大変だという実態は承知しております。東京都の教育委員会で実務的な研究をしまして、どうしたら実務の軽減ができるか検討しています。区の独自の部分は改善を加え、やはり先ほどお話のあったとおり、子どもたちに向かい合い学力・体力を向上させることが主目的ですから、そのことにはかに時間を使えるかが大きな部分です。このことを具体的にもう少し調べて取り組んでいきたいと思います。

○ **高木委員長** 日程的にはどのようになりますか。

○ **庶務課長** 9月30日に提出する予定です。提出し決算特別委員会の資料に使います。

○ **高木委員長** これは、全体的なことが出ているので、概要としてはわかりやすいですね。

○ **横山教育長** 今回3人の委員の方のご意見が後ろのほうにまとめてありますので、よりわかりやすくなっています。

○ **高木委員長** 意見の中で一番大きなものは、個人プロフィールをどのように活用するかということだと思います。たとえば、幼・小・中一貫にしても、中一プログラムはとても役に立つはずですから、小1から中3まで9年間もあります。6年目と7年目の段差に各学校別に特にブロック別にされていますから、どのような状況になっているか、非常に要になると思います。

報告事項第2

「行政財産使用承認」について、資料2のとおり庶務課長が説明する。

○ **高木委員長** 今現在、学校の中の学童クラブは何箇所ありますか。

○ **庶務課長** 10校あります。

○ **高木委員長** 以上で予定の議決事項、報告事項はすべて終了しました。これで教育委員会を閉会します。